

港湾振興便り



2018. 8

第135号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ —華やかに、にぎやかに

新潟で海フェスタ開催—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 稚内港でクルーズ船等対応施設の供用式典を開催

(北海道開発局 港湾計画課)

- 八甲田丸港フェスタ 2018 が開催されました！

(東北地方整備局 青森港湾事務所)

- 「夏休み！仙台港みなと探検隊！」を開催！

(東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所)

- 秋田港北防波堤の釣り利用に向けた試験開放

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

- 「2018 発見！酒田みなとの探検隊」を開催しました！

(山形県 県土整備部港湾事務所)

- 久里浜に「みなとオアシス」

～「みなとオアシス“ペリー久里浜”」が新規登録されました～

(関東地方整備局 港湾空港部)

- 「親子みなと見学会」と「水理実験場一般公開」を開催しました。

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所、新潟港湾空港技術調査事務所)

- 富山新港開港 50 周年記念式典を開催～東アジアのゲートウェイに～
(富山県 土木部港湾課)

- 金沢港賑わう！「港フェスタ金沢2018」開催
(港フェスタ金沢2018実行委員会)

- 「みなとオアシス三国湊」登録証交付式を開催しました！
(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

- 碧南緑地ビーチコートオープン記念
“へきなんビーチパレーボールフェスタ”を開催
(碧南市 教育部スポーツ課)

- 碧南市制70周年記念“衣浦みなとまつり花火大会”を開催
(碧南市 建設部土木港湾課)

- 東予港中央地区耐震強化岸壁供用式典を挙行了しました
(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

- 「道の駅なかとさ みなとオアシス久礼 1st ANNIVERSARY」が開催されました。
(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

- 「第9回ちびっ子トライアスロン in 奈半利」が開催されました。
(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

- 「みなとオアシス NAGASAKI」、「みなとオアシス対馬 厳原」、
「みなとオアシス対馬 比田勝」が新たに登録されました！
(九州地方整備局 港湾空港部)

- 「全国で116箇所目となる『みなとオアシスひらら』が誕生しました！」
(沖縄総合事務局 開発建設部港湾計画課)

- 「全国で117箇所目となる『みなとオアシスいしがき』が誕生しました」
(沖縄総合事務局 開発建設部港湾計画課)

3 お知らせ

◇鼠ヶ関港 とれたて！お魚市 紅えびまつり

*:

1 ポートエッセイ

—華やかに、にぎやかに

新潟で海フェスタ開催—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

先月号でご紹介させてもらったように、「海フェスタにいがた」が先月14日から29日まで開催された。今回はその様子をご報告する。

(すべての関係者に感謝)

今回の海フェスタは、開港五港の一つである新潟の「開港150周年」を飾るキックオフイベントの位置づけだった。多くの港湾・海事関係者や防衛庁、海上保安庁などのご協力のお陰で大成功のうちに終了することができた。すべての関係者に感謝申し上げる。

海フェスタにいがたは、新潟港の補助港として開港した夷港(両津港)を持つ佐渡市、工業港である新潟東港を共有する聖籠町の3市町が主催し、港湾管理者である新潟県に全面協力をいただいて実施した。海フェスタはご承知の通り、海や港湾、船舶に親しんでもらい、海洋国家・日本の発展を祈念する我が国最大の海事イベントだ。新潟開催ではテーマを「学んで、遊んで、食べて。海がもっと好きになる！」とし、多彩な催しが行われた。

(艦船の一般公開に人気)

特に護衛艦「ひゅうが」や練習帆船「海王丸」などの一般公開や乗船体験は大人気で、船舶への高い関心が示された。ディズニーが参加してくれたオープニングパレードや、ブルーインパルス of 展示飛行にも全国から大勢の方がやってきてくれた。

開会式で私は「これまでのみなとまち新潟の歴史を振り返り、これから10年後、30年後の港湾都市・新潟に思いを馳せる海フェスタにしていきたい」などとあいさつした。市歴史博物館「みなとぴあ」で開催された新潟港の歴史を振り返る企画展や、「海の総合展」にも多くの市民に参加いただき、当初の目的は十分に果たすことができたと思っている。

(秋篠宮同妃両殿下がお成り)

18、19の両日には、秋篠宮同妃両殿下からお出ましいいただき、記念式典や祝賀会にご臨席いただいた。「新潟港の150年の歴史のうち、順風だった時期は短く、逆風の中、先人たちが頑張ってくれたお陰で、いま新潟は本州日本海側で最大の拠点港になった」との私の話を受けて、秋篠宮殿下から「みなとぴあの歴史展示を見て、そのことがよく分かりました」とのお言葉を賜ったことは大変にありがたかった。

(海洋国家の繁栄を祈念)

海フェスタにいがたは無事16日間の会期を終え、閉会式で海フェスタのフラッグは次期開催地である静岡市(清水港)に引き継がれた。今後も港湾と船舶、海の素晴らしさを多くの人に伝え、海洋国家・日本の繁栄を祈念したい。

●八甲田丸港フェスタ 2018 が開催されました！

(東北地方整備局 青森港湾事務所)

7月15日(日)～16日(月)、「みなとオアシスあおもり」のアフロエリア※において「八甲田丸港フェスタ 2018」が開催されました。

本イベントは、青森港の魅力を高めるとともに、青森港と歴史的価値の高い青函連絡船を再認識し、港の賑わいを取り戻すことを目的に、「海の日」の連休に合わせて実施されています。

会場では2日間に渡り、ホタテ釣り体験や津軽海峡冬景色カラオケ大会など青森港ならではの様々な催しが行われました。中でも、放水ポンプからの放水にどれだけ耐えられるかを競う「Mr.防波堤」コンテストは、本イベントの名物となっており、青森の「食」を応援する地元アイドルグループ“GMU”(Gourmet Music Unit)のメンバーや“ねぶたマン”らの出場者が数秒で海に転落するなど、抱腹絶倒のコンテストが繰り広げられました。

当事務所も港湾業務艇「つがる」による青森港内体験航海や青森港を紹介したパネル展、潜水服の展示と送気用手押しポンプの体験を行い、同イベントに協力しています。

八甲田丸周辺には、2日間を通して多くの親子連れなど約4千人が訪れ、イベントは大盛況に終わりました。

※アフロ：アオモリウォーターフロントの略称



▲会場の様子



▲ホタテ釣り体験



▲津軽海峡冬景色カラオケ大会



▲「Mr.防波堤」コンテストの様子



▲青森港内体験航海の様子



▲手押しポンプの操作を
体験する子どもたち

●「夏休み！仙台港みなと探検隊！」を開催！

（東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所）

7月23日(月)に塩釜港湾・空港整備事務所が主催となり、夏休み中の小学生とご家族を対象に仙台港及び港湾利用企業の施設見学会を開催しました。

当イベントは、“みなと”の役割を学習してもらうために毎年開催しており、今回は27人の一般参加者がフェリーの船内や冷凍倉庫内を見学しました。また、港湾業務艇に乗船して海上から仙台港を見学し、普段は立ち入ることができない防波堤にも上陸しました。

参加者からは、「普段は中々立ち入れない場所を見学できて大変勉強になった。」「どれも興味深い内容で楽しかった。」「親子で楽しめた。また来たい。」などの感想をいただきました。

今後も“みなと”の役割を楽しく学んでいただき、“みなと”に少しでも親しみを持っていただけるイベントを企画して参ります。



フェリーの操舵室を見学



濡れタオルが凍る-25℃の冷凍倉庫を見学



普段は入れない防波堤へ上陸

●秋田港北防波堤の釣り利用に向けた試験開放

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

7月13日(金)からの3日間、北防波堤を試験的に釣り人に開放しました。港湾局では、既存インフラである防波堤の有効活用を図るため、新たな観光資源となるよう釣り施設としての利活用を進めています。昨年取りまとめられた秋田港長期構想においても「防波堤開放による秋田海釣りブランドの確立」が掲げられており、本年2月に国・秋田県・公益財団法人日本釣振興会などから組織された検討会を立ち上げました。これまで3回の検討会や落水者救助訓練を行い、利用者の安全確保が図られることを確認した上での試験開放となりました。

試験開放では、釣り好きのベテランから親子連れ等の釣り人168人が訪れ、黒鯛や平目などを釣りあげて楽しんでいました。

今回の試験開放を踏まえ、引き続き検討会での議論を重ね、来年度の本格開放を目指します。



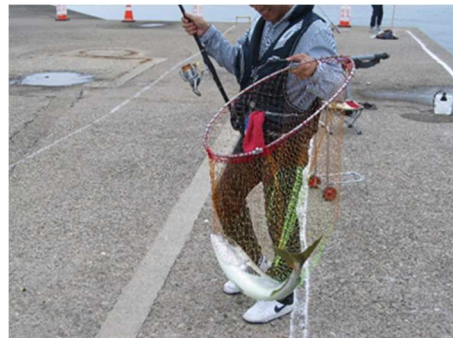
北防波堤試験開放の瞬間



北防波堤で釣りをする人々



親子で釣りを楽しむ様子



釣りあげた魚(ワラサ)

●「2018 発見！酒田みなとの探検隊」を開催しました！

(山形県 県土整備部港湾事務所)

7月14日(土)、山形県内の小学生と保護者を対象にした「2018 発見！酒田みなとの探検隊」を開催しました。56名の親子が参加し、「みなと」の学習や酒田海洋センターの見学、波消しブロックお絵かき体験、酒田港クルーズを通して、酒田港を含む本県の海に対する理解を深めていただきました。

「みなと」の学習では、酒田港に入港する船の種類や防波堤の役割などを学びました。

酒田海洋センターでは、北前船のコーナーや、大きな模型、酒田港の昔と今の姿を紹介するパネルなどを見ながら、身近な港と海の大切さを改めて感じていただきました。

波消しブロックお絵かき体験では、酒田港のブロックヤードで、大きなブロックに6色の絵の具で動物や花など好きなものを思い思いに描き、完成後には、全員で記念撮影をしました。

酒田港クルーズでは、酒田市の「定期船とびしま」に乗船し、港湾施設についての説明放送を聴きながら、船からの景色を楽しんでいただきました。

（主催：山形県、山形県港湾協会、NPO法人酒田港女みなと会議、共催：国土交通省東北地方整備局酒田港湾事務所）



「みなと」の学習



酒田海洋センター見学



波消しブロックお絵かき体験



酒田港クルーズ

●久里浜に「みなとオアシス」

～「みなとオアシス“ペリー久里浜”」が新規登録されました～

（関東地方整備局 港湾空港部）

7月14日（土）、「みなとオアシス“ペリー久里浜”」が「みなとオアシス」に登録され、同日登録証交付式が行われました。（登録数は7月14日時点で全国115箇所。）

式典には、上地横須賀市長をはじめ、神奈川県議会議員、横須賀市議会議員や港湾関係者など多くの皆様にご臨席いただき、盛大に催されました。



祝辞を述べる関東地方整備局 高田副局長



登録証交付の様子

左：関東地方整備局 高田副局長 右：上地横須賀市長

「みなとオアシス“ペリー久里浜”」は、ペリー提督が上陸した地“久里浜”にちなんで“ペリー久里浜”と命名されました。

みなとオアシスエリア内にある「ペリー公園」には、ペリー来航に関する歴史的資料や模型などが数多く展示されている「ペリー記念館」や横須賀市の指定重要文化財に指定されている「ペリー上陸記念碑」があります。



また、代表施設である「東京湾フェリー久里浜ターミナル」は、久里浜港と千葉県金谷港を約 40 分で結ぶ陸上・海上の交通拠点として、横須賀市はもとより房総半島の観光情報も備えており、ターミナル内では、横須賀市名物のよこすか海軍カレーや三崎まぐろを使用したメニューやお土産品など地元名産品を多く取り扱っています。



その他にも、東京湾を一望できる温浴施設や本格的な海鮮料理を味わえるレストラン、お土産売り場が併設された「漁師料理よこすか、海辺の湯久里浜店」などの施設があり、久里浜の歴史を感じながらくつろいでいただける空間となっております。

漁師料理よこすか、海辺の湯久里浜店



●「親子みなと見学会」と「水理実験場一般公開」を開催しました。

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所、新潟港湾空港技術調査事務所)

新潟港湾・空港整備事務所と新潟港湾空港技術調査事務所は、7月25日(水)～27日(金)の3日間、「親子みなと見学会」と「水理実験場一般公開」を開催し、164名の参加がありました。

今年度は新潟開港150周年ということで、海フェスタにいがた実行委員会主催の「みなとまち新潟探検隊」の探検コースに加わり、午前2回、午後から2回見学会を行いました。

最初に新潟港湾・空港整備事務所所有の港湾業務艇「あさひ」に乗船して新潟西港を巡り、続いて新潟港湾空港技術調査事務所では業務を紹介した映像を視聴してもらい、その後「液状化現象」の実験と「鳴り砂」の体験、「消波ブロック」と「防波堤模型」の説明、最後に平面水槽で波のデモンストレーションを行いました。

3日間とも35度近い暑さとなりましたが、夏休みという事もあり、多くの親子連れが参加し、普段あまり見る機会がない防波堤の模型や波のデモンストレーションに、子供たちは目を輝かせて熱心に話を聞いていました。また、「夏休みの自由研究にする」と笑顔で話し、説明者の言葉を一生懸命ノートに書きおこすなど、港に興味を持ってもらえたようでした。



港湾業務艇「あさひ」での港内見学



水理実験場での造波の様子

●富山新港開港 50 周年記念式典を開催～東アジアのゲートウェイに～

(富山県 土木部港湾課)

2018 年 7 月 11 日(水)、富山新港開港 50 周年記念式典が行政や同港を利用する荷主、船会社、地元の関係者ら約 200 人の出席を頂き、盛大に執り行われました。

式典では実行委員会会長の石井富山県知事の主催者挨拶の後、橋本衆議院議員をはじめ、来賓の方々からご祝辞を頂き、その後、実行委員会からこれまで富山新港の発展にご貢献いただいた企業、船社、個人の方々に対し感謝状の贈呈を行いました。

記念講演では、外交ジャーナリストの手嶋龍一氏から「戦略の海 日本海の明日を考える」と題し、米国や中国、北朝鮮の情勢を交えながら、北東アジアにおける富山新港の位置づけをお話いただき、元射水市長の分家静男氏からは、「富山新港の歴史」と題してお話をいただきました。

式典後のレセプションでは、新湊に古くから伝わる祝唄の「新湊めでた」や豪華さと迫りに満ちた「浜獅子太鼓」が披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

開港 50 周年を契機に富山新港がますます飛躍し、多くの皆様に親しまれ愛されるよう、今後様々な取り組みを進めていくこととしています。



記念式典の様子



感謝状贈呈



迫力ある浜獅子太鼓の披露



パネル写真展

●金沢港賑わう！「港フェスタ金沢2018」開催

(港フェスタ金沢2018実行委員会)

7月14日(土)、金沢港大浜埠頭をメイン会場として「港フェスタ金沢2018」を開催しました。今年は、海上自衛隊練習艦「しまゆき」の艦内見学をはじめ、港見学バスツアー、金沢港湾・空港整備事務所所有の港湾業務艇「わかな」による港内見学、国の関係機関によるパネル展のほか、地元産品販売や会場に隣接するコマツ金沢工場での「工場開放デー」のステージを利用した地元子供たちによる太鼓演奏やバトントワリングなど様々なイベントが催され、8千人を超える方々が港を訪れ、賑わいをみせました。

海上自衛隊練習艦「しまゆき」には、自衛官幹部候補生たちも乗艦しており、きびきびとした対応で来艦者を案内しておりました。

また、2年ぶりに復活した港見学バスツアーには多くの応募があり、抽選により当選した240名の方が普段入ることが出来ないコンテナターミナルのガントリークレーンや、無量寺埠頭の岸壁工事現場を見学し、興味深く説明を聞いていました。当日は大変暑く、醤油工場見学の際に食べた醤油ソフトクリームが好評でした。他にも、大野からくり記念館を見学しながら大野地区の歴史を学んだり、消波ブロックに絵や文字を描いたりするなど、有意義なツアーとなりました。

メイン会場では、厳しい暑さの中、物販のかき氷で涼をとる姿が多く見られ、国の関係機関のパネル展にも多くの人が足を運び、変わりゆく金沢港の写真などに見入っているなど、大盛況のうちに終了となりました。



海上自衛隊練習艦「しまゆき」の艦内見学



消波ブロックにお絵かきする参加者

●「みなとオアシス三国湊」登録証交付式を開催しました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

7月13日(金)、「みなとオアシス三国湊」が新たに登録されたため、ハートピア春江で開催された「第24回北前船寄港地フォーラムin坂井市三国湊」において、登録証交付式を執り行いました。

今回の登録により「みなとオアシス」は全国で114カ所目の認定、福井県内では「みなとオアシス敦賀」「みなとオアシスうみんぴあ大飯」に次いで3カ所目となります。

交付式では、港湾局長代理の北陸地方整備局 佐々木宏次長が祝辞を述べた後、申請者である坂井市 坂本憲男市長に登録証が授与、みなとオアシス三国湊 代表施設管理運営者の三國會所 大和久米登理事長と敦賀港湾事務所の高野所長が登壇し、和やかに記念撮影を行い、来場された大勢の方とともにみなとオアシス新規登録を祝いました。北前船の寄港地として繁栄したみなとまち“三国湊”の新たなにぎわい創出につながる事が期待されます。

※北前船寄港地フォーラムは、「北前船交流拡大機構」と開催自治体でつくる実行委員会が各地で開催するもので、今回のフォーラムには約400人が集結し、北前船をテーマにしたパネルディスカッションなどにより、北前船を活用した新たな観光戦略が議論されました。



登録証交付式の様子



来場者にパネル展示でオアシスをPR！

下記URLに、みなとオアシス三国湊の詳細記事、今後のイベントのお知らせなども掲載しますので、ご覧ください。

敦賀港湾事務所HP ↓

<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/>

●碧南緑地ビーチコートオープン記念“へきなんビーチバレーボールフェスタ”を開催

(碧南市 教育部スポーツ課)

7月21日(土)、衣浦港の碧南緑地において碧南緑地ビーチコートオープン記念「へきなんビーチバレーボールフェスタ」が開催されました。

本イベントは、愛知県と碧南市が共同で行っている碧南緑地の改良事業のうち、ビーチコートが本年7月1日から本格運用を開始したことを記念し、開催されたものです。記念式典のほかセレモニーとしてスラックラインやフラダンスショーのほか、トヨタ自動車ビーチバレーボール部の選手などによるエキシビジョンマッチが行われました。

当日は炎天下の中、記念式典には、約500名もの市民の皆様と、来賓として、地元自治体関係者を始め、国会議員、県議会議員、市議会議員、国土交通省、愛知県、碧南市の来賓等を含めた45名が列席し、来賓の皆様から開催の祝辞を頂きました。また、元ビーチバレーボール選手であり、NPO法人日本ビーチ文化振興協会の理事長などをつとめる、朝日健太郎参議院議員からは「碧南緑地ビーチコートは世界で3本の指に入る素晴らしい施設である」との高評価をいただきました。

また、エキシビジョンマッチでは、トヨタ自動車ビーチバレーボール部の川合俊一 GM の解説と、現役選手による世界トップクラスの白熱したプレーで会場は大いに盛り上がりました。



禰宜田碧南市長あいさつ



記念セレモニー（フラダンス）



ビーチバレーボールエキシビジョンマッチ（女子）

●碧南市制70周年記念“衣浦みなとまつり花火大会”を開催

(碧南市 建設部土木港湾課)

7月21日(土)、碧南市制70周年記念 衣浦みなとまつり花火大会が衣浦港の中央ふ頭地区において開催されました。

本イベントは、沿岸住民の衣浦港に関する理解を深め、親しまれる港づくりを進めるとともに衣浦港の振興と発展に寄与するため、衣浦みなとまつり行事として衣浦港の夏の風物詩である花火大会を実施するもので、碧南市、半田市、武豊町が輪番制で開催しています。

今年は碧南市の市制70周年の記念事業として、碧南市内の企業を始めとし多くの協賛金を頂き、盛大に開催する事ができ、天候にも恵まれ、花火打上げ場所の両岸の碧南市と半田市において約5万5千人の人々に観覧して頂きました。

開会式では、大会長の禰宜田碧南市長、実行委員長の鈴木碧南商工会議所会頭の挨拶のあと、来賓として大西健介衆議院議員、大見正衆議院議員、大村愛知県知事、石井愛知県議会議員より開催の祝辞を頂きました。

衣浦港の花火大会は打上場所と観覧席が近く、打上げ開始から胸に響く大きな爆発音が轟きました。花火の企画・制作・打上げは全国花火競技大会で連続20年以上上位入賞を果たす、(株)磯谷煙火店が実施しました。特にグランドフィナーレの“衣浦の大花火メロディースターマイン”は光と色の変化がコントロールされ、音楽と花火がシンクロした幻想的な演出で、会場からは大きな歓声が上がっていました。



衣浦の大花火メロディースターマイン

●東予港中央地区耐震強化岸壁供用式典を挙行了しました

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

平成 30 年 7 月 28 日(土)に、愛媛県西条市の四国開発フェリー(株)新ターミナルビル内において、「東予港中央地区耐震強化岸壁供用式典」を挙行了しました。

東予港中央地区では、平成 26 年度から複合一貫輸送ターミナル整備事業を実施しており、貨物量の増加に伴う船舶の大型化に対応するとともに、大規模地震発生時の緊急物資等の輸送拠点を確保することを目的に、耐震強化岸壁(水深 7.5m)、航路、泊地、ふ頭用地、臨港道路を整備しています。

今回の耐震強化岸壁(水深 7.5m)の供用により、大型フェリー(15,000 トン級)が着岸可能になり、トラック積載台数が約 3 割増加するなど、物流の効率化と経済活動の活性化が期待されます。また、震災後すぐに緊急物資等を海上から搬入することが可能になり、震災後も安定した物流機能を確保し、地域経済活動の維持にも寄与します。

式典では、高橋愛媛県東予建設局長の式辞、浅輪国土交通省大臣官房技術参事官の挨拶後、来賓の塩崎衆議院議員、白石衆議院議員、山本順三参議院議員、井原参議院議員、山本博司参議院議員に挨拶をいただきました。その後、亀岡松山港湾・空港整備事務所長から事業概要説明を行い、玉井西条市長の挨拶の後、テープカットを行いました。



完成した耐震強化岸壁



テープカットの様子

●「道の駅なかとさ みなとオアシス久礼 1st ANNIVERSARY」が開催されました。

(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

平成30年7月22日(日)、みなとオアシス久礼登録一周年記念イベントとして「道の駅なかとさ みなとオアシス久礼 1st ANNIVERSARY」が高知県高岡郡中土佐町のみなとオアシス久礼の代表施設である「道の駅なかとさ」で開催されました。

みなとオアシス久礼は今年5月に「平成30年度 日本港湾協会企画賞」を受賞しており、1 周年記念イベントのこの日、池田洋光中土佐町長より受賞報告が行われました。

イベントでは、地元中学校の音楽演奏、地元よさこいチームの踊りの他、物販ブースでの地元特産品等の販売が行われ、約 1,500 人の来場者で賑わいました。

当事務所も港湾業務艇「とさかぜ」による久礼港みなと見学会を実施し、計4便の運航で53人が参加しました。参加者は普段は見られない海からの景色を楽しみました。



池田洋光町長による企画賞受賞報告



地元中学吹奏楽部の演奏



地元団体のよさこい踊り



久礼港クルーズの様子

●「第9回ちびっ子トライアスロン in 奈半利」が開催されました。

(四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所)

平成30年7月22日(日)、高知県安芸郡奈半利町のみなとオアシス奈半利の「ふるさと海岸」で「第9回ちびっ子トライアスロン in 奈半利」が開催され、県内外から小学生 139 人が参加しました。

平成22年から始まった「ちびっ子トライアスロン in 奈半利」は、例年7月第4日曜日に開催されており、低・中・高学年の3部門で合計100人を超える参加者が集まる夏のイベントとして定着しています。

当日は台風の影響で波が高くスイムは中止となりましたが、バイクとマラソンの2種目で競技が行われ、参加した小学生たちは大人顔負けの白熱したレースを繰り広げました。



竹崎和伸奈半利町長の挨拶



海岸を走る



バイク



表彰式の様子

- 「みなとオアシス NAGASAKI」、「みなとオアシス対馬 厳原」、
「みなとオアシス対馬 比田勝」が新たに登録されました！
(九州地方整備局 港湾空港部)

平成30年7月28日(土)に長崎港(長崎県長崎市)が「みなとオアシス NAGASAKI」として、平成30年8月4日(土)には厳原港及び比田勝港(長崎県対馬市)が「みなとオアシス対馬 厳原」「みなとオアシス対馬 比田勝」(全国120箇所目)として、「みなとオアシス」に登録されました。

長崎港は、1571年に開港され2020年には開港450年を迎えます。その歴史ある長崎港には、年間200隻を超えるクルーズ船が寄港すると共に、魅力的なベイエリアが形成されているみなとであり、この度、「松が枝国際ターミナルビル」や、イベント等のメイン会場として賑わう「長崎水辺の森公園」など12施設が登録されました。

国境の島「対馬」は、古くから我が国と朝鮮半島との「架け橋」として繁栄の歴史をたどっており、厳原(いづはら)港と比田勝(ひたかつ)港はその玄関口として栄え、対馬への外国人入国者(2017年:約36万人)を受け入れるインバウンド拠点として重要な役割を担っています。この度、厳原港は海の幸を活用した地場産業のブランド化を、比田勝港は日韓交流のためのロードスポーツアイランド形成を目指して「み

なとオアシス」に登録されました。

それぞれの「みなとオアシス」の登録証の交付式は、地元のまつりの機会に合わせて行われ、地元選出の国会議員をはじめとする来賓の出席のもと盛大に執り行われました。

「みなとオアシス」の登録を契機に、地域の交流・観光振興の拠点として更なる賑わいをもたらし、今後も地元にも永く親しまれ、皆様の生活を支える「みなとオアシス」となることが期待されます。



みなとオアシス NAGASAKI 登録証交付



みなとオアシス対馬 厳原

みなとオアシス対馬 比田勝 登録証交付

●「全国で116箇所目となる『みなとオアシスひらら』が誕生しました！」

(沖縄総合事務局 開発建設部港湾計画課)

クルーズ船受け入れによる地域振興をはじめとする「みなと」を核としたまちづくりが進められている平良港にて7月15日(日)、「みなとオアシスひらら」登録証交付式が行われ、設置者である下地敏彦宮古島市長へ登録証が交付されました。

交付を受けて下地市長は、登録に対して感謝するとともに、「今回の登録を励みに、今後見込まれるクルーズ需要にしっかりと対応できるよう関係機関と協力して取り組んでまいりたい」と決意を新たにしました。

代表施設の「平良港マリナターミナルビル」は宮古島市各方面への路線バスの結節点となっているほか、クルーズ船が沖泊寄港する際は、テンダーボートによる上陸場所となっており、臨時CIQ手続きや観光案内、おもてなしイベントが行われるなど、クルーズ観光の拠点となっています。また、毎年夏に開催される「平良港みなとフェスタ」は多くの人々で賑わうなど、市民と観光客の交流拠点、情報発信拠点としての機能を有しています。

さらに構成施設である「パイナガマビーチ」は宮古島でも最も市街地に近いビーチであることから、多く

人々に利用されており、毎年6月(旧暦5月4日)には航海安全と豊漁を祈願する伝統行事「ハーリー(海神祭)」が開催され、地元住民や観光客の交流拠点として親しまれています。



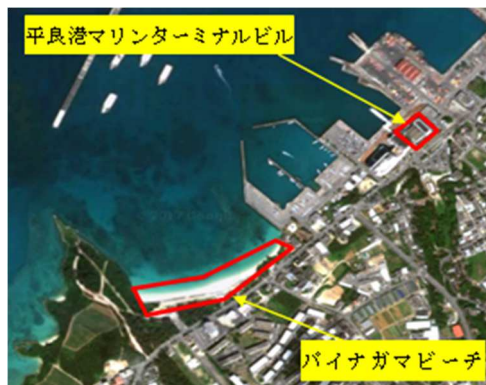
登録証交付(中島靖沖縄総合事務局開発建設部長
→下地敏彦宮古島市長)



設置者あいさつ(下地敏彦宮古島市長)



園児とともに記念撮影



みなとオアシスひららの構成施設

●「全国で117箇所目となる『みなとオアシス いしがき』が誕生しました」

(沖縄総合事務局 開発建設部港湾計画課)

2017年クルーズ船寄港回数が132回、全国第5位と、ますます賑わいを見せる石垣港にて、「みなとオアシス いしがき」登録証交付式が7月16日(日)に行われ、設置者である中山義隆石垣市長へ登録証が手渡されました。

交付を受けた中山市長は、「今後も利用者への適切な情報提供やイベントの充実などを通して、地域や観光客に親しまれる「みなとオアシス」になるよう取り組んでまいります。」と述べました。

代表施設の「ユーグレナ石垣港離島ターミナル」は竹富島、西表島、小浜島、黒島など周辺離島航路の拠点であり、地元住民の暮らしやビジネスの拠点として、さらには観光客の移動の結節点として年間200万人を超える人々が利用しており、大型クルーズ船が沖泊寄港する際は、テnderボートによる上陸場所として活用され、八重山圏域の観光振興を支える玄関口として、一年を通して多くの利用者で賑わっています。さらに構成施設の「石垣港旅客船ターミナル」はクルーズ船専用岸壁として本年4月21日に暫定共

用し、7万トン級までのクルーズ船を受入可能です。同じく構成施設の「新港地区緑地」は「南ぬ浜町緑地公園」として親しまれ、毎年夏に開催される「南の島の星まつり」は夏の風物詩として定着しており、多くの市民、観光客で賑わいます。



登録証交付（中島靖沖縄総合事務局開発建設部長
→中山義隆石垣市長）



設置者あいさつ（中山義隆石垣市長）



船上ステージにて記念撮影



みなとオアシスいしがきの構成施設

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

◇鼠ヶ関港 とれたて！お魚市 紅えびまつり

【U R L】 <http://www.city.tsuruoka.lg.jp/kanko/kankou-event/atsangyo-osakanaiti.html>

[illegible]